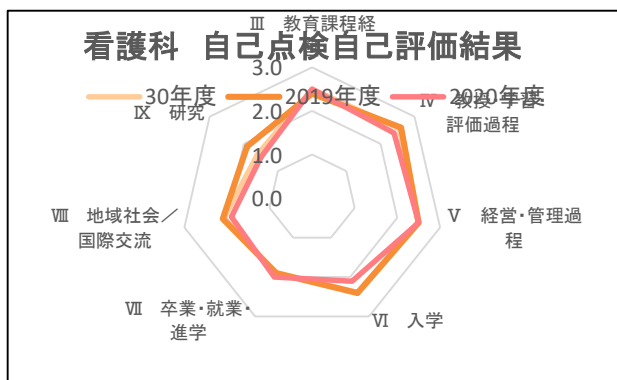
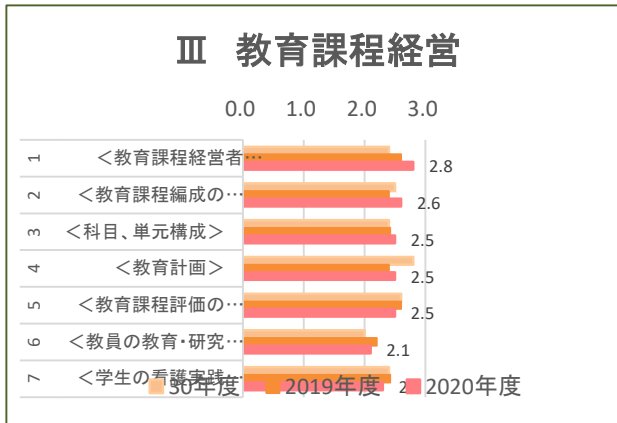


平成30・2019・2020年度 自己点検自己評価結果 看護科
 <評価基準> 3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

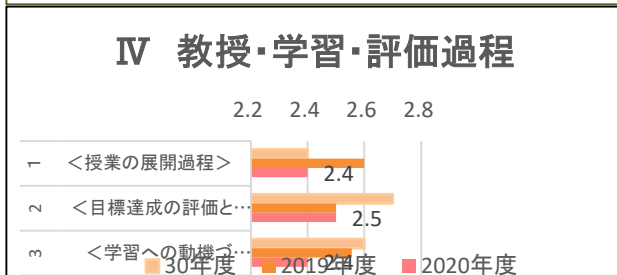
	30年度	2019年度	2020年度
III 教育課程経営	2.5	2.4	2.5
IV 教授・学習・評価過程	2.6	2.6	2.4
V 経営・管理過程	2.5	2.5	2.5
VI 入学	2.4	2.4	2.1
VII 卒業・就業・進学	1.9	1.9	2.0
VIII 地域社会／国際交流	2.1	2.1	1.9
IX 研究	1.6	1.9	1.5



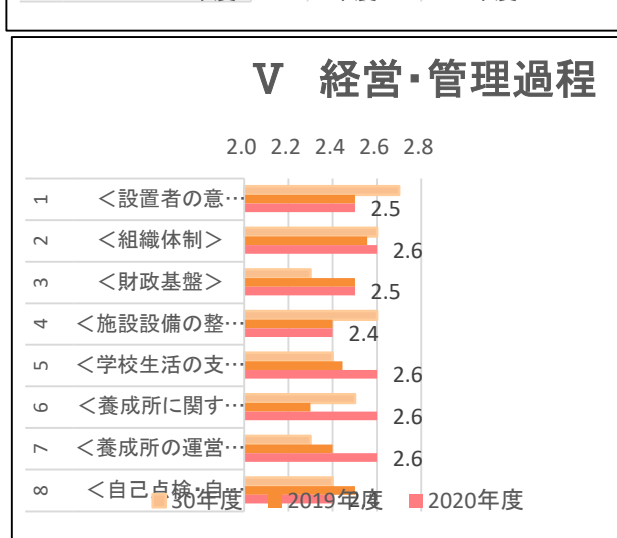
III 教育課程経営	30年度	2019年度	2020年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.4	2.6	2.8
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.5	2.4	2.6
3 <科目、単元構成>	2.4	2.4	2.5
4 <教育計画>	2.8	2.4	2.5
5 <教育課程評価の体系>	2.6	2.6	2.5
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.0	2.2	2.1
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.4	2.4	2.3
平均	2.4	2.4	2.5



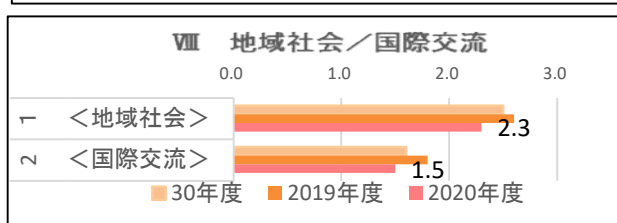
IV 教授・学習・評価過程	30年度	2019年度	2020年度
1 <授業の展開過程>	2.4	2.6	2.4
2 <目標達成の評価とフィードバック>	2.7	2.5	2.5
3 <学習への動機づけと支援>	2.6	2.6	2.4
平均	2.6	2.6	2.4



V 経営・管理過程	30年度	2019年度	2020年度
1 <設置者の意思・指針>	2.7	2.5	2.5
2 <組織体制>	2.6	2.6	2.6
3 <財政基盤>	2.3	2.5	2.5
4 <施設設備の整備>	2.6	2.4	2.4
5 <学校生活の支援>	2.4	2.4	2.6
6 <養成所に関する情報提供>	2.5	2.3	2.6
7 <養成所の運営計画と将来構想>	2.3	2.4	2.6
8 <自己点検・自己評価体制>	2.4	2.5	2.4
平均	2.5	2.5	2.5



VIII 地域社会／国際交流	30年度	2019年度	2020年度
1 <地域社会>	2.5	2.6	2.3
2 <国際交流>	1.6	1.8	1.5
平均	2.1	2.2	1.9



2020年度 重点課題に対する評価 看護科

1. 学生の満足度を高める教育を目指す。

①第110回看護師国家試験全員合格

2019年度に引き続き、4年連続全員合格できた。全員合格に導くための対策として、業者模試を8回、業者による特別講義を4月と7月に実施し、学生の国家試験への取り組みを支援した。また、対策強化ゼミを全員に臨ませた。更に成績低迷者を対象とした学外講師と学内教員による補習講義を1月から60時間行った。この項目に対する教員の4段階評価は4.0であった。また、卒業時のカリキュラムに対する評価では「国家試験対策（模擬試験・特別講義・補習講義）に満足しているか」の問いに対しては、肯定的な意見が2019年度より31%上昇し64%となった。引き続き2021年度も全員合格を目指し、国試対策を強化していく。

②学生個々に応じた支援（個別面談・学習支援・実習支援・就職支援）

学生への支援体制として、クラス担当制と、個々に応じた支援として、チューター制を導入している。実習支援としては、教員の他、非常勤の実習指導教員も関わっての指導を行っている。教員の評価は3.1とほぼ達成できた。

卒業時のカリキュラムに対する評価では「個別指導、進路指導など学生をサポートする体制が整っているか」の問いに対しては、肯定的意見が50%にとどまった。しかし、「全体的に本校で学んだことに満足か」の問いに対しては、肯定的意見が94%であった。以上のことから、ほぼ学生の満足度を高める教育はできたのではないかと考える。しかし、就職支援に関しては、業者による就職セミナーを開催しているが、「就職支援に向けた支援に満足か」の問いに対しては、肯定的意見が45%と低かった。近年、県外からの入学者も増え、地元に戻って就職することから、それぞれの地域の就職情報が入りにくいことが要因だと考えられる。今後、学生が何を求めているのかを把握し支援をしていく必要がある。

2. 専門的な知識・技術及び社会人基礎力の習得に向けた指導力の向上に努める。

① 基礎看護学方法論Ⅱにおける技術習得を目指す

1年生の基礎看護学方法論Ⅱにおける技術習得を目指すことを目標にしていたが、2020年度はコロナ感染症で4月から休校となり、その後遠隔授業が続いたため基礎Ⅱの練習期間が短縮した。また、感染対策として密を避けながらの練習にも制限があった。その為、1年生の基礎Ⅱの技術チェックの合格率が低く指導にも時間を要したため、教員の4段階評価は2.4と低かった。しかし、2年生の卒業時のカリキュラムに対する評価では「専門的な知識・技術が身についたか」の問いに対して、肯定的意見が9割以上と高く、2年間を通して、専門的な知識・技術は到達できていると考える。

② 卒業時の到達目標の達成度を上げる

2年生の卒業時到達目標の達成度の23項目すべてが肯定的意見80~90%以上であり、さらに2019年度と比較すると、23項目中20項目の肯定的意見が増加したこと、教員の4段階評価も3.0であることから、到達目標の達成度を上げることができたと言える。

3. カリキュラム改正に向けた取り組みを行う。

① 月1回の検討会による現行カリキュラムの見直し

2020年度はコロナ感染拡大による教育実施に際して、オンライン授業の導入と学内実習など、これまでの教育を大きく変更せざるを得なかった。

現行カリキュラムの評価として、入職後1年目と2年目の卒業生にアンケートを行ったが、回答率が低かった。このことは卒業生が多忙な状況にあったと考えられ、その中でも新カリキュラムに向けて参考になる意見があった。また、講義・実習・会議等で時間の捻出が難しい中でも、月1回の検討会を実施したことで、教員の4段階評価は2.9とほぼ達成できたと言える。今後も新カリキュラムが2023年度からスタートするため、計画的に実施していく必要がある。

② 多職種連携教育・ICT教育の導入に向けた準備

2020年度コロナ感染症によって休校となったが、いち早く遠隔授業に取り組んでいた他校から情報を得、授業を遠隔で実施できた。新カリキュラムに向けて、多職種連携教育を視野に入れた取り組みとして、まずは2020年度から他校の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による講義を導入することとした。しかし、教員の評価は2.6と低かった。今後はさらに多職種連携教育を発展させるため、他校の学生との遠隔授業なども検討していく。さらにICT教育の導入に関しては、これまでの大学講師へ依頼し、内容や方法の検討を行っていく。

4. 受験者数の増加に向けた取り組みを行う。

① 総合型選抜（旧AO入試）の導入

従来の学校長推薦、一般入試（一次・二次）の3回に加え、AO入試の導入を行った結果、前年度より応募者が増加し定員数の学生が確保できた。しかし、准看護学校全体が定員割れを起こしている状況から、今後2年課程の応募者が減少してくることは否めない。今後、魅力ある教育を目指し、応募者数の増加に向けて取り組んでいきたい。

2021年度 重点課題 看護科

1. カリキュラム改正に向けた取り組みを行う。
 - ① 改正カリキュラムの意図を組み入れた教育課程の構築に向けて月2回の検討会を行う。
 - ② 多職種連携教育・ICT教育の準備・導入に向けた実施方法の検討

2. 看護職としての自立・自律を目指した教育を行う。
 - ① 専門職としての自覚をもたせる関わりを行う。
 - ② 学生の個々に応じた個別指導や進路指導など学生をサポートする。

3. 感染症対策をとりながら教育の質を担保する。
 - ① 教職員・学生の感染対策の徹底を行い、教育の継続を図る。
 - ② 感染状況に応じた教育方法の選択と工夫を行い教育を充実させる。

4. 看護師国家試験受験の全員合格を目指す。